

総合的な学習の時間学習指導案

指導者 野本 麻衣

- 1 日時 令和5年10月20日（金）第5校時
- 2 学年 第3学年1組 27名
- 3 単元名 みんなにやさしい海田町 ～やさしさいっぱいとどけ隊～

4 単元目標

探究のサイクル1

○「福祉」とは何か知ろう。

探究のサイクル2

○体験を通して、自分たちにできることはどんなことか考えよう。

探究のサイクル3

○自分たちにできることを実践しよう。

5 単元について

(1) 教材について

児童を取り巻く社会には、様々な人が生活し、すべての人が幸せになりたいと願っている。みんなが幸せな生活をするためには、一人一人の違いを認め、相手を分かろうとし、相手のことを考えて接していくことが必要である。

本単元は、「みんなにやさしくする」ことを最終的なゴールにして、福祉をテーマに主体的に課題を見出し、その課題を解決するためにどうすればよいのか考え、調べたことをまとめたり伝えたり、協働的に課題解決に取り組むプロセスを繰り返すことができる単元である。福祉に関わる方の話を聞いたり、疑似体験を行ったりする中から、感じたことや疑問を出し合い、お互いの考えを交流し、福祉に関する理解を深めていくとともに、困り感に気づき、「みんなにやさしい海田町」に近づけるために自分たちにできることはどんなことかを考え、それらを実践に移すことをねらいとしている。また、体験をしたり調べたりする活動を通して、人とつながっていく力をつけていくとともに、人々の支え合いの大切さを感じることができると考える。

(2) 児童の実態

本学級の児童は、1学期の「みんなにやさしい海田町」の学習において、「福祉」とは何かについて本やインターネットで調べる学習に取り組み、みんなが幸せに暮らせるように、仲良く、思いやりを持って、支え合って生きていこうとする考え方であることに気付いている。また、道徳科の学習では、「やさしい人大さくせん」の教材を通して、相手の置かれている状況、困っていることなどを自分のこととして想像することによって、相手のことを考えた親切な行動やそのよさについて考える学習を行った。その中で、自分たちにできることをしてみたいという思いを持っているが、実際にどう取り組めばよいのか考えたり、自分たちに何ができるのかを考えて行動したりしようとする児童は少ない。

(3) 指導について

本中学校区で育成したい資質・能力は、次の3点である。これらを育むために、本単元では、次のような手立てを行う。

資質・能力	手立て
主体性	身近な地域の中で探究活動を行い、自分たちができると考えた活動を実際に友達とともに行っていくことを通して、一人一人の児童の願いや興味・関心が生かされる主体的な学びを促す。
コミュニケーション力	高齢者疑似体験や車椅子体験などを取り入れ、自分以外の誰かの視点に立って物事を見たり、考えたりする活動を充実させる。また、意見交流の場を設定し、自分達ができることについて話し合ったり、協働して活動したりする中で、友達の考えとの結び付きや自分の考えや思いの整理をし、学びを深められるようにする。

メタ認知	毎時の学習の振り返りで自己評価を行う時間を設定する。視点を明確にした評価や振り返りを行うことにより、児童に自分の成長への気付きや学習の連続性を実感できるようにする。
------	--

6 評価規準及びルーブリック

(1) 評価規準

評価の観点		
①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
<p>ア 自分のまわりには、友達や家族、高齢者、車椅子で生活している等、様々な人がいることを理解している。</p> <p>イ 活動を通して調べたり考えたりしたことについて、相手意識や目的意識を明確にしながらまとめる方法が分かっている。</p> <p>ウ 自分に関わる人にやさしくするよさに気付いている。</p>	<p>ア 「みんなにやさしくする」ことについて課題を設定し、解決に向けて自分にできることを考え、見通しを持って計画している。</p> <p>イ 「みんなにやさしくする」ことに向けて、必要な情報を収集する手段を選択している。</p> <p>ウ 「みんなにやさしくする」ことに向けて収集した情報を取捨選択したり、複数の情報や考えを比較したり、関連付けたり、焦点化したりしながら解決に向けて考えている。</p> <p>エ 伝える相手や目的、意図に応じ、工夫してまとめ、表現している。</p>	<p>ア 課題解決に向けた自分の取組や状況を振り返り、「みんなにやさしくする」ことに向けて粘り強く取組もうとしている。</p> <p>イ 探究的な活動体験を通して、自分と違う友達の考えを生かしながら、課題解決に向けて、他者と協働して学び合っている。</p> <p>ウ 自分にできることに取り組むことを通して、自分と実生活・実社会の問題の解決に取り組もうとしている。</p>

(2) 探究のサイクル2におけるルーブリック

資質・能力			B 目標を概ね達成した状態	A 目標を大きく達成した状態
知識・技能	メタ認知	ウ	他者と協働して活動に取り組むよさや自分自身の成長が分かる。	他者と協働して活動に取り組むよさや自分自身の成長が分かり、自己の生き方につなげて考えることができる。
思考・判断・表現	コミュニケーション力	ウ	整理した情報を比較して、共通点や相違点を考察して分析している。	整理した情報を比較したり関連付けたり、多面的に考察したりして分析している。
主体的に学習に取り組む態度	主体性	イ	自分なりの方法を考えて探究活動に取り組んでいる。また、他者と協働して学び合っている。	課題意識を持って、自分なりの方法を工夫しながら探究活動に取り組んでいる。また、課題解決に向けて、他者と協働して学び合っている。

7 指導と評価の計画（全 70 時間）

*別紙 1 : 「単元構想図」参照

8 本時の展開

本時の目標 体験活動を通して分かったことを整理する活動を通して、友達と関わり合いながら、自分たちができる「やさしさ」を考えることができる。		
学習活動	指導上の留意事項	評価規準（評価方法）
1 前時の振り返りから本時の学習活動を確認し、本時のめあてを設定する。	○学習の見通しを持たせるために、学習の流れを確かめる。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">めあて</div> 自分たちができる「やさしさ」について話し合おう。		
2 グループでホワイトボードを使い話し合う。	○自分の考えを持たせてから話し合いに臨ませる。 ○国語科で学習した「考えを広げる話し合いの仕方」をモニターで提示し、話し合いの仕方を意識させる。 ○似ている考えは線分けや色分けをしてまとめるなどして整理させる。	
3 全体で交流する。	○交流する前に、全体で意見を聞く視点を確認する。 ○黒板に各グループのホワイトボードを貼り、他のグループの内容に関連付けて意見を述べさせることで、内容を深める。	
4 グループの考えを整理する。	○全体で交流し合ったことを基に再度、グループの意見を整理する時間を確保する。 ○自分たちの考えを「実現性」と「効果」で考えを整理させることで、多面的に見ていく必要性を捉えさせる。	【②-ウ】 (ワークシート・発言分析)
5 本時の学習を振り返り、次時の学習活動を確認する。	○次の活動の見通しを持たせるために、今日の学習の振り返りをさせて、気づきや新たな発見などを共有していく。 ○振り返りの視点「ホップ・ステップ・ジャンプ」の中から、特に振り返らせたいステップの視点を提示する。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ステップ： 今まで学習したこととのつながり。 理由や根拠をあげて。</p> </div>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>振り返り ・友達と交流して、自分にできることは身近にたくさんあることに気がきました。高齢者疑似体験のときに、かいだんを下りたり、くつをはきかえたりすることがむずかしかったので、高齢者が困っているときは、やさしく声をかけたり、待ってあげたりしたいです。 ・自分たちが考えたことを実践するための計画を立て、できることから取り組んで、海田町にやさしさをいっぱいとどけたいです。</p> </div>		

9 板書計画

みんなにやさしい海田町 ～やさしさいっぱいとどけ隊～

めあて 自分たちにできる「やさしさ」について話し合おう。

これまでの活動の写真

高齢者疑似体験

車イス体験

認知症サポーター養成講座

海田児童館
(ネウボラ)

グループごとに意見を整理したホワイトボード

グループごとに意見を整理したホワイトボード

ぼく・わたしの「やさしさ宣言」

- ・体験したことをたくさんの人に伝えていく。
- ・困っている人がいたら、やさしく声をかけて助けてあげる。
- ・地いきでたくさんあいさつをしていく。

振り返り ステップ

- ・自分たちにできることは身近にたくさんある。
- ・これまでの体けんから、やさしい声かけはどんなときでも大切だと思ったので、自分の言葉づかいを見直したい。